

登録コード	UAC19500	開講年度	2026				
授業題目	日本史研究				担当教員	塩原 佳典	
					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・ 5 時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				日本史研究（特に近現代史）に必要なとなる史料読解や分析枠組みを身につけること。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				日本史研究（特に近現代史）に必要なとなる史料読解や分析枠組みを身につけること。		
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				日本史研究（特に近現代史）に必要なとなる史料読解や分析枠組みを身につけること。		
(2)授業の概要	この授業では、藤田省三『精神史的考察』を思索のたよりとしながら、日本近現代史を通史として展望することを目指す。各章の内容をもとに、関連する歴史学の先行研究をも参照しながら、講読を行い、討論に取り組む。受講生には、毎週複数の文献に目を通すことを求める。						
(3)授業計画	第1週 ガイダンス（授業の進め方、担当決めなど） 第2週 レジюме作成や文献検索の方法 第3週 文献講読：「隠れん坊」の喪失 第4週 文献講読：『保元物語』と史劇 第5週 文献講読：明治維新と「処士横議」 第6週 文献講読：歴史変質の時代 第7週 文献講読：「周縁」からの歴史観 第8週 受講生による中間報告 第9週 文献講読：元号という機制 第10週 文献講読：「戦後」を問題化する 第11週 文献講読：歴史のなかの「離脱」 第12週 文献講読：批判的理性を日本史に探る 第13週 文献講読：高度経済成長の生活文化 第14週 受講生による総括報告 第15週 まとめ						
(4)成績評価の方法	報告の内容、討論への参加をもとに評価を行う。無断欠席は認めない。						
(5)成績評価の基準	「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに発展的な報告内容としてまとめ、討論にも積極的に参加している」（卓越している） 「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」（やや上にある） 「蒐集した史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」、「報告内容をまとめ、討論にも参加している」（合格水準にある）						
(6)事前事後学習の内容	初回に発表順の分担を決定する。報告にあたっては、参考文献を複数冊読み込み、レジюме作成にあたること。						
(7)履修上の注意	無断欠席は認めない。毎回、史料や文献の予習をして臨んで下さい。						
(8)質問,相談への対応	オフィスアワーなどを利用し対応します。面談を希望される場合は、事前にアポイントをとってください。						
【教科書】	藤田省三『精神史的考察』平凡社、2003年						
【参考書】	議論の内容をふまえ、適宜紹介します。						